

緑の地球ネットワーク イベント記録 (2023 年度)

2024 年	
3 月 18 日	GEN なんでも勉強会オンライン 人と森の距離感 中・近世ヨーロッパにおける都市と森林 —ニュルンベルクの事例から
2 月 19 日	GEN なんでも勉強会オンライン 人と森の距離感 現代ドイツ 身近な巨樹の物語
2 月 12 日	GEN 自然と親しむ会 芥川沿いを歩いてバードウォッチング
1 月 29 日	GEN なんでも勉強会オンライン 森林の訪問・体感利用
2023 年	
12 月 18 日	GEN なんでも勉強会オンライン 気候変動と生物多様性—地球温暖化現象がもたらす生き物や生態系への影響
11 月 22 日	GEN なんでも勉強会オンライン 「みんなの自然」を求めて
10 月 28 日	GEN 自然と親しむ会 秋のきのこを探しに行こう
10 月 24 日	GEN なんでも勉強会オンライン ボランティア活動の現場から ～大学生の社会参画について～
9 月 28 日	GEN なんでも勉強会オンライン 気候変動が中国古代文明の歴史を変えた ～それは黄土高原から始まった～
9 月 2 日～3 日	東北海岸林再生活動
8 月 30 日	GEN なんでも勉強会オンライン 4 年ぶりの中国訪問報告会
7 月 27 日	GEN なんでも勉強会オンライン 知ると楽しい公園のあれこれ
7 月 8 日	GEN 自然と親しむ会 紫金山公園で里山整備
6 月 17 日	GEN 第 29 回総会記念講演 鳥たちの不思議な能力と里山のシンボル「サシバ」の生態・保護・保全の実態
6 月 3 日	GEN 自然と親しむ会 前中代表と歩く野の道シリーズ 18 初夏の大仙公園を歩く
5 月 13 日	オンラインシンポジウム 環境に国境はない！ 相互理解と国際協力の出発点
4 月 19 日	GEN なんでも勉強会オンライン 京都西山へっぽこ猟師のものとり話
4 月 15 日	GEN 自然と親しむ会 前中代表と歩く野の道シリーズ 17 春の大仙公園を歩く

GEN なんでも勉強会オンライン

人と森の距離感 中・近世ヨーロッパにおける都市と森林 —ニュルンベルクの事例から

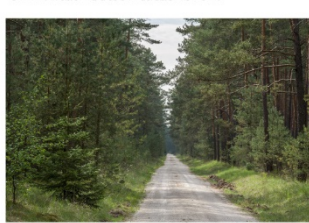
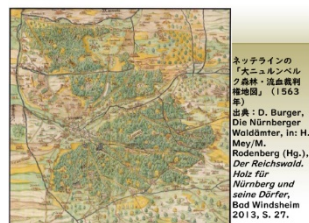
～ 開催要項 ～

2月と3月は「人と森の距離感」をテーマにお届けします。2月の現代ドイツ編につづき、3月は歴史の森に分け入ります。史上初めて針葉樹の種まきによる植林が行われたといわれるドイツのニュルンベルク。近年新資料の発見などにより新しい見解もでてきています。絵図をひもときながら、都市と森の歴史の関係を紐解きます。

日時	2024年3月18日（月）19時～20時30分ごろ
場所	ウェブ会議システム Zoom
報告	渡邊裕一さん（福岡大学人文学部歴史学科准教授）
参加費	無料
定員	100名

～ 開催記録 ～

参加人数	35名
------	-----



ドイツの人と森の関係は、古代の辺境の森から、農民が利用し、産業を支えた中世以降の森、グリム童話のイメージ、酸性雨に苦しむ森、保護林など、さまざまな側面と背景をもつことから入りました。そして示された一枚の絵図。エッツラウプの帝国森林絵図（1516年）と題されたそれは、立派な都市とそれを取り囲む南北に分かれた森の姿を絵画的に描いています。50年後のネッテラインの流血裁判権地図（1563年）は文字通りかなり正確な（に見える）地図で、川や道路、森に点在する集落なども書き込まれています。森林を管理・利用しようとする都市の意図が、前者では都市の大きさを強調し、後者では森林を正確に描くという違いを生みました。中・近世のドイツで、帝国都市辺境伯が森林の権利を奪い合い、農民や民衆は上が誰であろうと森の恵みを利用して暮らしを営む。そんな歴史の一コマが垣間見えました。驚いたのは、シュバルツバルト（黒い森）は針葉樹で暗いから、というのは事実と異なるというお話。トウヒを植える前は落葉広葉樹の森で明るかったけど、そのころからシュバルツバルトと呼ばれていたとか。黒はどこから来たのでしょうか？（ところで、流血裁判権というのは、死刑判決を下す裁判ができる権利をいうそうですよ。気になりますよね…）

GEN なんでも勉強会オンライン

人と森の距離感 現代ドイツ 身近な巨樹の物語

～ 開催要項 ～

2月と3月は「人と森の距離感」をテーマにお届けします。2月はドイツと日本の二拠点生活を送る山元周吾さんにお話をうかがいます。地形や土地利用の違いからか、日本よりずっと人と森の距離感が近いドイツ。日常的に森林と触れ合うドイツの暮らしは、新型コロナウイルス流行を経て何か変化があったのでしょうか。また、ミュンヘン市内に点在する巨樹について、歴史的・文化的側面からお話いただきます。

日時	2024年2月19日（月）19時～20時30分ごろ
場所	ウェブ会議システム Zoom
報告	山元周吾さん（喜代七屋 副代表）
参加費	無料
定員	100名

～ 開催記録 ～

参加人数	36名
------	-----



なんでも勉強会では過去2回、ヨーロッパの生活と森林について学んできました。森＝山の日本に対して、平坦で森にアプローチしやすいヨーロッパでは日常的に森林に親しんでいることが印象的でした。今回、山元さんは3度目の登壇ですが、アフターコロナのドイツの暮らしや、ミュンヘンの巨樹などについてうかがいました。

コロナで対人距離を保つ必要から屋外活動が増え、若い狩猟家や女性の狩猟家が増えたり、森林浴への関心が高まったという話は興味深かったです。

ミュンヘン近郊の3か所の巨樹が紹介されました。歴史ある森林体験センターの北米からきたセコイア、ローマ街道沿いの森のオーク、修道院のボダイジュ。それぞれに物語があり、大切にされていることがわかりました。

また、五月祭のマイバウム（メイポール）についても、村の特徴をあらわす飾り付けがなされることや、4、5年ごとに建て替えられることなど、興味深いお話がありました。

巨樹はドイツでも尊崇の対象であり、大切にされていますが、日本のように伐ると祟りがあるというような話は聞かないそうで、その違いも面白いと思いました。

GEN 自然と親しむ会

芥川沿いを歩いてバードウォッチング

～ 開催要項 ～

木々が葉を落としている冬はバードウォッチングに最適の季節です。海を渡って日本で冬を越す鳥など、この時期ならではの野鳥の姿を観察しませんか。

今回は高槻市の芥川沿いを歩きます。芥川は高槻市のほぼ中心部を流れ、周辺には田んぼやため池などの農耕地が広がっています。高槻市立自然博物館（あくあぴあ芥川）主任学芸員の高田みちよさんの案内で芥川沿いの野鳥を観察します。初めての方もお気軽にご参加ください。

日時	2024 年 2 月 12 日（月・祝）10 時～14 時ごろ
場所	高槻市・芥川沿い
集合／解散	10 時に JR 高槻駅中央口／あくあぴあ芥川周辺
案内	高田みちよさん（高槻市立自然博物館（あくあぴあ芥川）主任学芸員）
参加費	700 円（保険料含む）
持ちもの	歩きやすい靴と服装、弁当、飲みもの、敷物、あれば双眼鏡と野鳥図鑑
定員	20 名（先着順）

～ 開催記録 ～

参加人数	11 名
------	------

JR 高槻駅に集合後、大名行列も通ったという西国街道を芥川まで歩きました。「高槻まちかど遺産」の水門跡を見るなど、歴史の勉強も。ちなみに、芥川の名前は阿久刀神社に由来するそうです。その阿久刀神社に立ち寄った時には、上空を舞うハイトカを観察できました。



芥川沿いをゆったり時間をかけて歩きました。この 4、5 年毎年来ているというアメリカヒドリがヒドリガモといっしょに泳いでいるのをじっくり観察。この報告の鳥写真（トリミング有）を撮影してくれた藤田修二さんもアメリカヒドリは初見だと喜んでおられました。また、見物人にしきりとサービスしてくれたジョウビタキ♂が縄張りに入ってきたキジバトを追い払うのを見たり、カワウが漁をして小さな魚を 5 匹ほど食べる様子も観察しました。33 種類+声だけの 1 種類と、収穫豊かな鳥見でした。

GEN なんでも勉強会オンライン

森林の訪問・体感利用

～ 開催要項 ～

木材生産や二酸化炭素固定、水源涵養など森林の機能はいろいろありますが、エコツーリズム、スポーツ、レジャー、森林浴、自然教育などの諸活動も含まれ、森林の訪問・体感利用と呼ばれています。これらは利用者と受入者など立場の違いや、自然に対する価値認識の違いで軋轢が生じることもあります。同時に人びとがお互いの立場や異なる価値を学び合い、多様性の中での持続可能な社会構築をともに目指していく機会ともなります。森林のレジャー利用について考えます。

日時	2024年1月29日（月）19時～20時30分ごろ
場所	ウェブ会議システム Zoom
報告	平野悠一郎さん（森林総合研究所 主任研究員）
参加費	無料
定員	100名

～ 開催記録 ～

参加人数	35名
------	-----

新興の訪問・体感利用① マウンテンバイク

- 1970年代に北米でMTB自転車が普及し、1980～90年代にかけて世界各地に普及。
- 2000年代の山道・トレイルや急峻な地形を走り切るものが大きな特徴とされる。
- 日本の利用者は、数万人程度。
- アメリカの利用者数：数億人程度。
- 中国：大々的に普及中。行政や村が主体となつての林地でのマウンテンバイクコース整備（四川省等）。



新興の訪問・体感利用② トレイルランニング

- 公園近郊の山道での普及が顕著で、日本でも2000年代以降に、大規模な大規模な山道・トレイルの整備（トレイル）が、比較的短期間で数千人以上に対して普及している。
- 日本の利用者は、20～30万人程度。
- 中国：年間約100万人、約100万人程度。競走選手やアマチュアランナーが数万人程度と推定される。
- アメリカの利用者は、約100万人（2009年）。
- 中国：大規模な山道や公園を中心とした大々的な普及中。各地で大々的な大会が開催。



新興の訪問・体感利用③ フォレストアドベンチャー（冒険型パーク）

- フランス発祥の冒険型パーク。2000年代前半に日本に導入され、森林内の木々・果実と直接触れ合い、安全な冒険型アドベンチャーが楽しめる。
- 日本では、主に山道・トレイル、急峻な地形を走り切るものが大きな特徴とされる。
- 中国：大々的に普及中。行政や村が主体となつての林地でのマウンテンバイクコース整備（四川省等）。



森林サービス産業として訪問・体感利用を 事業化・ビジネス化しようとしても...



地域貢献活動を通じた相互理解によって、以下 のWin-Winの関係を築けるように。



マスコミやネットで目にするマウンテンバイクやトレイルランニング。山を荒らすのではないかな、とちょっと心配でした。今回、「マウンテンバイカーズ白書」というご著書がある平野さんにお話をうかがい、そうしたいわゆる“新参”の森林利用の可能性を知ることができました。旧来の利用者（林業者やハイカーなど）、権利者などから歓迎されないことが多いバイカーやランナーが、林道を整備するから走らせてほしいなどと交渉し、それが荒れつつある山の保全につながる。高齢化や過疎化で保全が行き届かない山や集落で、バイカーやランナーが整備や清掃活動をおこなって住民と交流したり、林業だけではたちゆかない山林にフォレストアドベンチャーの施設を作って利用者を呼び込んだり、新しい森林の訪問・体感利用の可能性が提示されました。多くの関係者の利害を調整し、win-winの関係を築く突破口となりえます。参加者からは政策にとりいれられるよう働きかけてはという声もあがるなど、活発な意見交換もありました。

GEN なんでも勉強会オンライン

気候変動と生物多様性

地球温暖化現象がもたらす生き物や生態系への影響

～ 開催要項 ～

地球が温暖化と寒冷化を繰り返すなかでさまざまな種が進化・発展と絶滅を繰り返し、その結果現在の生物の多様性が成立しています。現在私たちが直面している地球温暖化に対しても同じように生物多様性が維持され続けるのでしょうか。

まず植物の移動のメカニズムを理解し、日本列島における植物の種多様性がなぜ高いかを考えます。さらに、現在の温暖化の特質を把握することで、これから起こりうる生物多様性や生態系への影響を推測し、私たちが取るべき行動を考えたいと思います。

日時	2023 年 12 月 18 日 (月) 19 時～20 時 30 分ごろ
場所	ウェブ会議システム Zoom
報告	片山雅男さん (認定 NPO 法人環境市民理事・元神戸教育短期大学教授)
参加費	無料
定員	100 名

～ 開催記録 ～

参加人数	45 名
------	------

緑の地球ネットワーク GENなんでも勉強会
2023.12.18

『気候変動と生物多様性』

地球温暖化現象がもたらす
生き物や生態系への影響



片山 雅男

(3) 複雑な地形と地質
急峻→浸食・堆積→複雑な地形
→多様な環境→多様な植生
地形による違い
尾根、谷筋、斜面、湿地
扇状地、沼澤
土壌の深さの違い
地質による違い
石灰岩植生、蛇紋岩植生、
花崗岩植生など



11

狭い地域に多様な生育環境
種々の種はこの多様な環境条件
から、適した生育地を探し出す。
さらに、他種との関係も影響



リュウノワギク



ワカサハマギク

20

新固有種: 広い分布域をもつ母種から新たに分化
→ 時間的にも分布域を広げることができない種
リュウノワギク→ワカサハマギク

日本の森林帯 繰り返された移動の結果

緯度	標高	
高緯度 (寒帯荒原)	高山帯	ヒゲハリスゲ
高標高 亜寒帯針葉樹林	亜高山帯	オオシラビソ
↑ 冷温帯夏緑広葉樹林	山地帯	フナ
中間温帯夏緑広葉樹林	丘陵帯 (低山帯)	クリ
暖温帯常緑広葉樹林	低地帯	シイ
↓ (照葉樹林)		
低緯度 亜熱帯多雨林		
低標高		

高山のお花畑(長野県白馬岳)



9

(2) 北方寒地系の植物

周縁要素

高山

チョウノスケソウ

ヤナギラン

コケモモ

ガンコウラン

湿地

モウセンゴケ

ウメバチソウ

ミツガシワ



15

連存固有種 分布圏の移動・縮小で衰退し、取り残された種

セコイア (北米) やメタセコイア (中国)

絶滅の危険性をもった保護の必要性

氷河植物群・蛇紋岩植物・石灰岩植物



セコイア



メタセコイアの苗木 (滋賀県マキノ)

21

今回は関心が高いテーマだったようで、たくさんのご参加をいただきました。内容もとてもわかりやすく、また、考えさせられるものでした。

まず、日本列島がその位置・地理・気象・土壌の条件から、湿度・気温差・高低差があり、そのために中緯度地域ではまれな植物の多様性に恵まれていること、また、それが保たれてきたメカニズム (水平移動、垂直移動) などを学びました。

植物は時間さえあれば種を飛ばすなどして移動し、種を保存できますが、現在の温暖化の速度には対応できない種があります。その種を保存したいなら、研究施設のようなところに困うしかなく、もしかかもしれません。種の多様性を保つには、温暖化を止めるための努力とともに、絶滅危惧種の保全のための工夫が必要だと実感しました。

GEN なんでも勉強会オンライン 「みんなの自然」を求めて

～ 開催要項 ～

誰もが自由に森に入り採集もできる北欧の習慣（万人権）、入会林野＝森のコモンズなどをキーワードに、人と森との関係について考えてみませんか。国土の 2/3 が森林の日本では、森林が人間の生活に深くかかわっていました。木材はもちろん、山菜やキノコなどの恵みをうけてくれた歴史がありますが、近年人と森との関わりが薄くなっています。このことに懸念をいだき、遠くなった人と自然のつながりを再生するための研究を続けておられる齊藤暖生（はるお）さんにお話をうかがいます。

日時	2023 年 11 月 22 日（水）19 時～20 時 30 分ごろ
場所	ウェブ会議システム Zoom
報告	齊藤暖生さん（東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林講師）
参加費	無料
定員	100 名

～ 開催記録 ～

参加人数	21 名
------	------

まずは日本の関東から北に多くみられる、森の恵みを活用した暮らしの紹介から始まりました。



カレンダーにぎっしり書き込まれたキノコ採集の記録、調理や保存の工夫など。なるほどと思ったのは、キノコ採集歴の浅い人は多くの種類のキノコを集めるけれど、ベテランはおなじみのおいしい種類だけを集めるという話です。

北欧の万人権は、人口密度の低さと関係がありそうで、人口密度の高い日本も同じようにというわけにはいかないようです。

そんななかで、東大演習林である山中湖畔の富士癒しの森研究所で積み上げてこられたさまざまな試みはとても興味深く、また、参加された近隣住民の方々がうらやましく思えるようなものでした。整備や調査、また、「森の文化祭」や「音楽会」の開催など、住民参加の「癒しの森」づくりという新しい試みの今後に期待が高まります。

GEN 自然と親しむ会

秋のきのこを探しに行こう

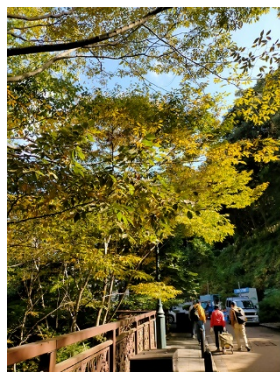
～ 開催要項 ～

秋の箕面公園を歩いてキノコを探し、種類や特徴、どんな働きをしているのかなど、いっしょに学んでみませんか。滝ともみじが有名な箕面公園ですが、シイ類、カシ類が共生する森では、この時期さまざまなキノコが見つかります。講師の栗栖敏浩さんに解説していただきながら、最後には見つけたキノコの種類や仲間を判別する作業もおこないます。キノコ観察が初めての方にも気軽にご参加いただけます。

日時	2023 年 10 月 28 日（土）10 時～15 時ごろ
場所	大阪府営箕面公園（箕面市）
講師	栗栖敏浩さん（樹木医、（株）松本微生物研究所）
参加費	700 円（保険料含む）
定員	15 名（先着順）
持ちもの	歩きやすい服装・靴、弁当、飲みもの、敷物、雨具、あればきのこ図鑑
備考	少雨決行

～ 開催記録 ～

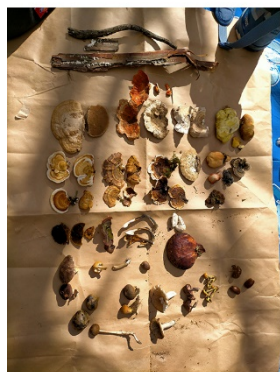
参加人数	16 名
------	------



紅葉はまだだが、気持ちのいいハイキング日和



晴天が続いていたため、固いキノコが多かった



約28種のキノコが見つかった



採取したキノコを同定する

秋の箕面、紅葉の紅葉はまだでしたが、晴天に恵まれてなかなかの賑わいでした。今年は梅雨明け前後の7月あたりまではわりと順調にきのこが見られた記憶があるのですが、夏の猛暑と雨が少なかったことが影響してか、秋のきのこシーズンになってもなかなかきのこに出会えず、観察会当日も案の定「おーいどこだー！」と大声を出したくなるほど探すのに苦労しました。がんばって探すと朽ち木や枯れ枝などについた腐朽菌のきのこが徐々に見つかり、最初はなんとなく歩いていた参加者のみなさんも目が慣れてくると「あった！」と見つけていました。約28種のきのこが見つかりました。ホコリタケがみつかるさっそくぼふぼふ叩いて胞子を飛ばし出してくるのを見たり、ケヤキにつくコフキサルノコシカケに腰かけてみたり、コツブタケを半分に割って中のつぶつぶを観察したりと、さまざまな方法できのこ観察を楽しみました。

GEN なんでも勉強会オンライン ボランティア活動の現場から ～大学生の社会参画について～

～ 開催要項 ～

今年 5 月、オンラインシンポジウムのパネリストに宮崎さんをお招きし、国際ボランティア学生協会（IVUSA）の中国での緑化活動についてお話しいただきました。IVUSA は中国での活動だけでなく、被災地支援や地域活性化など、大学生が主体となってさまざまなボランティア活動を展開しています。学生ボランティアに長年関わっておられる宮崎さんに、IVUSA の活動や学生の社会参画の意義などについてお話しいたします。

日時	2023 年 10 月 24 日（火）19 時～20 時 30 分ごろ
場所	ウェブ会議システム Zoom
報告	宮崎猛志さん（（特活）国際ボランティア学生協会（IVUSA）理事）
参加費	無料
定員	100 名

～ 開催記録 ～

参加人数	11 名
------	------

GEN と同じぐらいの歴史を持つ国際ボランティア学生協会。社会も大学も変わる中で、いまでも全国に 2500 名の会員をもつそのパワフルな活動はどんなふうに展開されているのでしょうか。

最初に紹介された現代の大学生事情はコロナの影響もありいわゆる“内向き”なものでした。一人



でいるのが居心地がいいしほっとするのに孤独を感じている、コミュニケーションが不得手だけど社会の役に立ちたい。その“社会の役に立ちたい”気持ちを生かせる場所が IVUSA なのでしょう。驚いたのが、ボランティア活動を支える研修の充実度です。

GEN 関東ブランチと IVUSA は西伊豆の黄金崎でマツの再生に協力したことがあります。足元が悪く危険も伴う作業だったのに、続率がとれて全く危なげがなかったと関東ブランチの参加者は感心していました。現場で発揮されるその力は、事前に行われるしっかりした研修のたまものだと、宮崎さんのお話を聞いてわかりました。

GEN なんでも勉強会オンライン

気候変動が中国古代文明の歴史を変えた ～それは黄土高原から始まった～

～ 開 催 要 項 ～

地球は気候変動を繰り返しています。ときには気候変動が自然環境と人間の変化、現在は人間が気候変動を引き起こして自然環境を変えています。今回は歴史学者の村松弘一さんに、気候変動と中国古代文明史について、「中国古代文明史の変動は黄土高原から始まった」をキーワードに、古代の都市遺跡や馬の牧場、秦はどうして天下を統一できたのか、なぜ漢王朝が滅び「三国志」の時代となったのか、などについてお話しいたします。

日時	2023 年 9 月 28 日（木）19 時～20 時 30 分ごろ
場所	ウェブ会議システム Zoom
報告	村松弘一さん（淑徳大学教授・GEN 世話人）
参加費	無料
定員	100 名

～ 開 催 記 録 ～

参加人数	45 名
------	------

歴史が大きく動くときには気候変動があった、といえおおげさですが、実際気候変動は人類の歴史に大きな影響を与えています。寒冷化や乾燥化などの気候変動（太陽活動や地球の変動などの自然要因）が植物に影響を与え、それが動物に影響して人間の社会にまで影響が広がるということがわかりました。B.C. 5000～3000 年の温暖なヒブシサーマル期に太湖周辺に広く栄えた良渚文化が衰退した原因とも考えられる急激な寒冷化・乾燥化の 4.2ka イベント（B.C. 2200 年）は、今回の参加者さんからも指摘があった、エジプトの古王国の衰退など、地球規模で人類に影響を及ぼしました。今回のお話で興味深かったのは、食料としての動物だけでなく、家畜・使役動物とし



古代中国の馬の飼育とは



秦の始皇帝陵兵馬俑

石峁遺跡



ての動物と人間の関わりにも影響したという点です。乾燥化が漢族の騎馬の利用の契機となり、漢代は大規模な馬の飼育が行われ、寒冷化でそれが不可能になって漢王朝が滅ぶ。仮説としても、魅力的なお話です。

そして人類が気候変動を引き起こして自然環境を変えている現在は、どんな歴史となるのでしょうか。

東北海岸林再生活動

～ 開 催 要 項 ～

コロナ禍以降実施できていなかった東北海岸林再生ツアー、ようやく再開となりました。植樹は終了しているので、本格的な作業はできませんが、毎回好評をいただいている工藤さんによる被災・復興状況の見学と、造林地のいまの様子の見学も予定しています。

日時	2023年9月2日（土）10時30分～3日（日）15時
場所	宮城県仙台市、名取市、岩沼市
内容	1日目：被災地見学（工藤寛之さん案内） 2日目：ゆりりん愛護会の指導・案内で植樹、造林地見学
参加費	18,000円（宿泊費、レンタカー代、9月2日夕食～3日昼食までの食費、保険料を含む。現地までの交通費は含まない）
定員	10名（先着順）

～ 開 催 記 録 ～

参加人数	10名
------	-----



震災遺構荒浜小学校



林野庁管轄のクロマツ造林地。クズに覆われてしまった



市民が守った蒲生干潟。生きものが戻ってきている



蒲生干潟に戻ってきたカニ



名取市サイクルスポーツセンター屋上から再生された海岸林をのぞむ



関上生まれのマツ苗。生育を助けるために菌根菌を接種してある



サイクルスポーツセンターの敷地内に松苗を記念植樹



GENも協力した岩沼市寺島地区の海岸林。マツの成長が著しい



造林地から堤防をはさんで海側には津波の生き残り実生のマツ

今回印象に残ったのは、蒲生干潟の再生状況でした。これまで行ったことがなかった仙台市北部のこの干潟は、堤防の建設で消失するところだったのを、ここで活動が続けていた市民グループが行政に働きかけて堤防の位置を動かし、保全した場所です。震災前の半分ほどまで、生き物たちは戻ってきているそうです。

また、造林地でのマツの成長と、それを上回るクズの勢いに驚きました。もちろん手入れをしているところにはクズはありません。植えるばかりではなく、除草や、時期を見ての間伐など、

計画を立てて行う必要性を感じました。

GEN なんでも勉強会オンライン

4年ぶりの中国訪問報告会

～ 開催要項 ～

コロナで長らく中国を訪問できずにいましたが、ようやく8月上旬にGENスタッフが北京・大同・蔚県を訪問しました。4年ぶりに訪問する中国で目にした緑化協力地や街のようす、コロナ前と現在の変化や、渡航までの苦労などをご報告します。

日時	2023年8月30日（水）19時～20時30分ごろ
場所	ウェブ会議システム Zoom
報告	高見邦雄さん（GEN 副代表）
参加費	無料
定員	100名

～ 開催記録 ～

参加人数	45名
------	-----



北京林学会でミーティング。中央が智信秘書長



蔚県郷土樹木園では4年の間に木が大きく育っていた



代王城四村のアンズは収穫ができるまでに育った



約略村のアブラマツも順調に生育している



幹線道路から采凉山、カササギの森への道路は拡幅、舗装されていた。カササギの森の向こうまで続く



カササギの森は東西2km、南北4km、造林面積600ha



2004年に写真を撮った位置からでは、木にさえぎられて見通しがきかない



旧地球環境林センターは口泉植物園となり、憩いの場として市民に親しまれている

ビザの手配や新型コロナウイルスの検査と健康申告の準備など出発前からいろいろ面倒だった4年ぶりの訪中。いざ行ってみれば時間経過とコロナで変わった面もあるとはいえ、心配していたほどのことはありませんでした。カウンターパートに決まってから一度も対面できていなかった北京林学会のメンバーともリアルでミーティングができました。蔚県ではプロジェクト実施が決まってから一度も訪ねられていなかった陽眷鎮で、6つのプロジェクト地と来年の候補地を訪ねることができました。ただ、訪中直前の水害で道路が壊れ、蔚県で1か所、大同では南天門自然植物園を訪ねることができなかったのは残念でした。大同ではカササギの森を訪ね、立派な道路と林立する風力発電の風車に驚きました。アブラマツとナラの測定を行いました。管理棟前のアブラマツは樹高10mほどに育っていました。ノービザが復活しない限りツアーの実施はむずかしそうですが、機会をみつけてまた訪中したいと思います。

GEN なんでも勉強会オンライン 知ると楽しい公園のあれこれ

～ 開 催 要 項 ～

日ごろ運動や自然観察を楽しむ、わたしたちの身近な存在である公園。日本の公園制度の始まりとされる明治 6 年（1873 年）の「太政官布達」が発せられてから、今年で 150 周年を迎えます。この節目の年に公園の歴史や役割について学んでみませんか。

意外と知らない日本の公園制度について、都市公園と自然公園の違い、大阪堺市にある浜寺公園の歴史についてなど、GEN 代表の前中久行さんにお話しいただきます。

日時	2023 年 7 月 27 日（木）19 時～20 時 30 分
場所	Web 会議システム Zoom
講師	前中久行さん（GEN 代表）
参加費	無料
定員	100 名

～ 開 催 記 録 ～

参加人数	22 名
------	------

1873 年（明治 6 年）の太政官布達が、日本の公園制度の一大画期とされています。それまでは大名の庭園だったり、社寺の境内だったりした 25 か所を、「万人偕楽ノ地トシ、公園ト相定メ」しました。大阪では住吉公園、浜寺公園が指定され、今年 150 年を迎えます。

制度としては、営造物公園（道路や港湾空港等と同じく土地取得）と地域性公園（公共の利益のため私人の土地利用を一部制限）と大きくふたつに別れ、前者は皇居外苑や京都御苑、各地の国営公園などであり、後者は国立公園、国定公園などです。また、身近な公園の多くは都市公園法のもとに都市公園として存在していて、設置距離や面積が定められています。そのほか、制度上の定めはないけれども誰でも楽しめる実質的な公園の役割を提供する制度や施設も多く存在し、誰でもいつでも自由に楽しめる園地の存在が重要です。

ところで国立公園と国定公園の違いをご存じですか？ 国立公園は、「わが国の風景を代表するに足る傑出した自然の風景地」であり、環境大臣が指定し、国が管理します。国定公園は「国立公園に準ずる優れた自然の風景地」であり、環境大臣が指定し、都道府県が管理します。特に面積等の数値基準が設けられているわけでもない、このファジーな区分と運用、いいですね。

後半では、堺市の浜寺公園が紹介されました。明治ははじめから太政官布達で公園に指定されるまでに状況が二転三転したクロマツの伐採の危機にははらはらしました。

大阪には浜寺公園も含めて 19 の府営公園があり、それぞれにイベントを開催したり、ボランティアが活動したりしています。一度参加してみるのはいかがでしょうか。

GEN 自然と親しむ会 紫金山公園で里山整備

～ 開 催 要 項 ～

吹田市の紫金山公園は里山が残された自然公園です。1998 年に発足した紫金山みどりの会は吹田市の市民を中心に紫金山公園でコバノミツバツツジの管理など里山保全の活動を続けています。昨年 9 月の GEN なんでも勉強会で紫金山みどりの会会長の武田義明さんに講演していただきましたが、今回、月 1 回の活動日に参加させていただきます。午前は草刈りなどをおこない、午後は公園内での自然観察を予定しています。

日時	2023 年 7 月 8 日（土）9 時～15 時ごろ
場所	紫金山公園（吹田市）
指導	紫金山みどりの会
参加費	無料（ボランティア保険加入済。別途昼食代 100 円が必要です）
定員	15 名（先着順）
持ちもの	作業しやすい服装（長袖、長ズボン）、歩きやすい靴、帽子、弁当、飲みもの、敷物、軍手、タオル、あれば鎌、ヘルメット（作業道具・ヘルメットは現地にも用意があります）
備考	少雨決行

～ 開 催 記 録 ～

参加人数	GEN から 5 名。全体で 22 名。
------	----------------------



左上)草刈りをしてすっきりした梅林
中上)昼食の流しそうめん
右上)梅のお礼肥のための溝掘り
左中)梅の剪定作業
右下)作業終了後は道具のチェックと手入れ
左下)自然観察で愛嬌をふりまいたヤマガラ
（トリミングなし、ピンボケ残念）
中下)午後の自然観察で巨大キノコ発見

お天気が心配でしたが、蒸し暑かったものの結果的にはこの季節の屋外のイベントには最適な曇天。梅林の草刈りと施肥を行いました。楽しかったので写真を多めに載せます！ 紫金山みどりの会みなさんには、作業を指導していただき、お昼には流しそうめんをごちそうになりました。ありがとうございました。

GEN 第 29 回総会記念講演

鳥たちの不思議な能力と

里山のシンボル「サシバ」の生態・保護・保全の実態

～ 開催要項 ～

恐竜の子孫、鳥類。最小は 2 グラムのハチドリから、最大は 120kg のダチョウまで、その種類は 1 万をこえます。鳥たちの驚異的な能力と体の仕組みなどを知ること、多様性の持つ意味を実感できるでしょう。後半は、里山のタカ、「サシバ」のお話。その生態や生活史、彼らを取り巻く現状と大西さんが係わった大阪府内の生息状況調査をご紹介いただき、生物多様性の大切さとサシバの保護・保全を考えます。

日時	2023 年 6 月 17 日（土）13 時 40 分～15 時 15 分
場所	大阪産業創造館研修室 A・B（大阪市中心部）／ウェブ会議システム Zoom
講師	大西敏一さん（バードコンサルタント）
参加費	無料
定員	100 名

～ 開催記録 ～

参加人数	48 名
------	------

本当は 2 本分の内容をひとつの講演に詰め込んでいただいて、たいへんみっちり詰まった中身の濃いお話でした。まずは「鳥のファンを増やしたい！」と鳥の不思議なお話から。鳥の多様性や三大特徴、「羽毛」「翼」「嘴」のそれぞれについて、バイオミメティクス、等々。また、生涯の飛行距離が地球一月の 4 往復分に近いというキョクアジサシとか、紫外線や地磁気が見えていると



里山のシンボル「サシバ」
生態・保護・保全の実態

緑と地球のネットワーク総会
2023.06.18

サシバってどんな鳥？

- 食性
 - 爬虫類
 - 両生類
 - 小型哺乳類
 - 昆虫類
 - 甲殻類
 - 節足動物
 - 小鳥類
- など多岐にわたる

サシバ減少の要因

- ・外敵による生息の阻害（オオタカ・ノスリ・カラスなど）
 - 営巣地の路奪・捕食
- ・人為的圧力（カメラマン・BW など）
 - 繁殖活動の阻害
- ★電気柵・シカ柵の設置

か、驚くことばかりでした。後半のサシバのお話では、かつては「トビの次に多いタカ」だったのにいまや絶滅危惧種になってしまったサシバの生態や現状について話していただきました。大阪府南部ではペアの数が 40 年前の 4 分の 1 まで減ってしまっていることが分かるなど、やはり減少が著しいようです。原因は、開発、里山や農村部の荒廃、農林業の衰退、他の猛禽との競争など、一筋縄ではいきそうにありませんが、サシバが暮らしていける環境をなんとか保全していきたいものです。

GEN 自然と親しむ会

前中代表と歩く野の道シリーズ 18 初夏の大仙公園を歩く

～ 開催要項 ～

前中代表と歩く野の道シリーズは、歩きやすく平坦な道を歩き、おもに植物の自然観察を楽しむ会です。

今回は堺市にある大仙公園を訪れます。大仙公園は、仁徳天皇陵古墳と履中天皇陵古墳の間にひろがる緑と歴史にかこまれた公園です。

初夏の大仙公園を歩き、日本庭園を楽しみませんか。

日時	2023 年 6 月 3 日（土）10 時～15 時ごろ
場所	大仙公園（堺市堺区）
案内	前中久行さん（GEN 代表）
参加費	700 円（保険料を含む。別途日本庭園の入園料大人 200 円が必要です）
定員	20 名
持ちもの	歩きやすい服装と靴、弁当、飲みもの、敷物、帽子
備考	少雨決行

～ 開催記録 ～

参加人数	コンディション不良のため中止
------	----------------

オンラインシンポジウム

環境に国境はない！ 相互理解と国際協力の出発点

～ 開催要項 ～

気候危機が深まり、その防止のために協力が必要な時に、世界は分断と戦争へ向かいつつあります。米中対立が深刻化する中、日本の立ち位置は難しくなる一方です。

環境分野での協力こそ誰にとっても利益をもたらすものであり、人類と地球上の生命が生き残るために、いま最も求められているものだと思います。NGO の草の根協力、政府間協力の経験者から話を聞き、議論を深めましょう。

日時	2023 年 5 月 13 日（土）13 時 30 分～16 時
場所	ウェブ会議システム Zoom
パネリスト	染野憲治さん（早稲田大学現代中国研究所招聘研究員） 宮崎猛志さん（（特活）国際ボランティア学生協会理事） 高見邦雄さん（緑の地球ネットワーク副代表）
コーディネーター	原裕太さん（東北大学災害科学国際研究所助教・GEN 世話人）
参加費	無料
定員	100 名

～ 開催記録 ～

参加人数	59 名
------	------

経済でも科学技術でも、日本を追い抜いて先を行く中国。その中国で、いま、環境協力を続ける

とはどういうことなのでしょう。大同での 25 年間の協力で相互理解を築き上げてきた GEN の高見副代表、政府間協力の現場で仕事をしてこられた染野さん、学生ボランティアツアーを率いて中国各地で緑化協力に取り組んでこられた IVUSA の宮崎さん、それぞれのお立場からお話をうかがい、立体的に見ることができました。

政府間の環境協力は、技術レベルではどちらかが一方的に教えるのではなく、お互いに相手の優れたところに学ぶことが必要だということでした。また、IVUSA の学生さんたちが主体的に生き生きと活動するようすはとても勉強になりました。世界の分断がすすむいまだからこそ、地球環境のためにも、相互理解のためにも、環境協力を突破口に関係を保つことが大切だと思います。

オンライン・シンポジウム

環境に国境はない！

相互理解と国際協力の出発点



中国山西省大同市で山の一面を覆い込み自然植樹園（86ha）をつくった。植えるだけでなく、放牧と集約を排除したことにより植生が回復した。



GEN なんでも勉強会オンライン

京都西山へっぽこ猟師のものとり話

～ 開 催 要 項 ～

昨年 8 月の GEN なんでも勉強会では京大芦生研究林のシカ害について学びました。農業への獣による被害をニュースなどで目にする機会も多くあります。

一方でジビエや狩猟女子などといった言葉がトレンドに上がるようになってきました。

狩猟の実際のようなすを、会社勤めのかたわら狩猟免許を取得して京都で狩猟を続けておられる稲垣文拓さんにお話しいただきます。

日時	2023 年 4 月 19 日（水）19 時～20 時 30 分ごろ
場所	ウェブ会議システム Zoom
講師	稲垣文拓さん（GEN 会員）
参加費	無料
定員	100 名

～ 開 催 記 録 ～

参加人数	22 名
------	------

稲垣さんは猟そのものに関心があって猟を始めたのではないそうです。「美味しいものは自分で作る！」と始めた田んぼの稲穂が全部見事にシカにかじられ、移り住んだ京都西山のご近所さん（高齢者多し）もみなさん獣害に困っておられる。ネットにからんで死んだシカの処理を猟友会に頼んだことがきっかけで、自分もやってみようと思われ始めました。わな猟と、装薬銃をつかえる第一種免許を取得、会社勤めのかたわら 2 頭の愛犬とともに猟に従事しておられます。

意外だったのは猟に関心がある若い人がそれなりにいるということ。ただし体験してみても、安定的な収入が保障されるわけでもなく、また、「思ったのと違う」こともあり、続ける人は多くないそうです。先日山焼きの技術が失われているという話をうかがいましたが、猟も同様、高齢の

猟師がもつノウハウを受け継ぐべき人があまりに少なく、継承が危ぶまれるとのこと。それでも、稲垣さんが思い描く未来には希望があることが印象的でした。

画像左下写真の真ん中の食事の材料は、すべてお住まいから半径 5km 以内でとれたものとか。手間もひまもかかるけれど、暮らしを営むというのはこういうことなんだと考えさせられました。



GEN 自然と親しむ会

前中代表と歩く野の道シリーズ 17 春の大仙公園を歩く

～ 開催要項 ～

前中代表と歩く野の道シリーズは、歩きやすく平坦な道を歩き、おもに植物の自然観察を楽しむ会です。

今回は堺市にある大仙公園を訪れます。大仙公園は、仁徳天皇陵古墳と履中天皇陵古墳の間にひろがる緑と歴史にかこまれた公園です。

4月の大仙公園で自然観察を楽しみませんか。園内にある日本庭園も訪れる予定です。

日時	2023年4月15日（土）10時～15時ごろ
場所	大仙公園（堺市堺区）
案内	前中久行さん（GEN 代表）
参加費	700 円（保険料を含む。別途日本庭園の入園料大人 200 円が必要です）
定員	20 名
持ちもの	歩きやすい服装と靴、弁当、飲みもの、敷物、帽子
備考	少雨決行 コロナ対策の上おこないますが、状況により変更・中止の可能性があります。

～ 開催記録 ～

参加人数	雨天のため中止
------	---------